

パブリッククラウドの活用で ITインフラにおける課題を解決

スピーディーにリソースを調達し、激しい環境変化に対応する



新型コロナウイルスはITインフラのあり方にも大きな影響を与えている。テレワーク利用者の増加によってリソースが枯渇し、ITインフラを急遽増強しなければならない状況にある企業も数多い。こうした課題に対応するために丸紅情報システムズが新たに提供を開始したのが「MSYS-CVO Cloud」だ。パブリッククラウドの導入を手軽に進められるという同サービスはユーザーにどんなメリットをもたらすのか。事業開発担当の倉田氏とサービス企画担当の朝香氏に話を聞いた。



新型コロナでIT環境が激変、 企業はより困難な状況に

新型コロナウイルスはビジネスや社会のあり方を大きく変えた。ビジネスを支えるITインフラも大きな影響を受けており、テレワークに対応するためのアプリケーションや基盤の整備に追われたIT担当者も少なくないはずだ。

特に企業は、限られた予算と時間のなかでITインフラを急いで整備することが求められ、さまざまなトラブルに見舞われるケースが急増している。そのなかでも問題になるのは社内で利用している業務システムやその周辺システムの「テレワーク対応」だ。

テレワークに向けてWeb会議アプリケーションや勤怠管理システムなどを整えることはそれほど難しいことではない。さまざまなベンダーから提供されているクラウドサービスを活用することで安価にスピーディーに環境を構築できる。

だが、社内で運用している業務システム、たとえば、リモートで自分のPCにアクセスするためのVDI(仮想デスクトップ)環境や重要ファイルを保存するための共有ストレージの整備となると、決して一筋縄ではいかない。ストレージの調達やボリュームの拡張、自宅から安全に社内にアクセスするためのネットワークやセキュリティの整備、BCP(事業継続計画)への対応などもある。

事業開発担当の倉田氏はその難しさをこう説明する。

「予測が難しい環境変化に対して、迅速に対応できる仕組み作りが重要となり、ITシステムにはすぐに導入し運用できることが必須要件になってきました。たとえば、テレワークの導入では、これまで数ヶ月かけて段階的に導入していたところを一気に全社導入まで漕ぎ着けることが求められます。その際に気をつけなければならないのは、利用者が急に増えることで、リソースが枯渇し、インフラ基盤の増強が追いつかなくなることです」(倉田氏)

こうした課題は、テレワーク導入だけでなく、激しい環境変化への対応やあらゆるIT導入において直面する課題でもある。



課題解決のカギはパブリッククラウドと マネージドサービス

企業が直面している課題を整理すると「ビジネス環境が日々変化するなかで、限られた予算と時間を効率的に使いながら、どうスピード、拡張性、柔軟性を確保していくか」ということになるだろう。



IT基盤ソリューション事業本部
プロダクトマーケティング部
アシスタントマネージャー
倉田 将氏



クラウドソリューション事業本部
事業推進部 サービス企画課
エキスパート
朝香 維真氏

これらを解決するためのアプローチとして倉田氏がまず提案するのがパブリッククラウドの活用だ。

「パブリッククラウドは柔軟にリソースの増減が可能で、急なリソース追加への対応や先々を見据えたボリュームの購入などが不要です。また、物理的な機器のメンテナンスなども、クラウド事業者が行ってくれるので、セキュリティアップデートや障害時の対応などの管理からも解放されます。物理的な機器の管理が不要になるので、データセンターへエンジニアを派遣する必要もなくなり、コロナ禍における人の移動自体を減らすことが可能になります」(倉田氏)

ただ、パブリッククラウドといってもストレージのようなインフラをサービスとして提供するIaaSは、Web会議や勤怠管理のようなアプリケーションだけを提供するSaaSとは違って、誰でも簡単に利用できるというわけではない。導入にあたってはクラウドに対する知識やノウハウの習得、既存機器との連携、毎月変動する課金システムへの対応など、障壁となる部分も多く残っている。

そこでサービス企画担当の朝香氏が併用を勧めるのがマネージドサービスだ。マネージドサービスのなかには、クラウドの提供基盤の管理だけでなく、既存の機器との連携などのシステム設計や正式稼働後の課金管理、運用保守などを含めて、事業者がまるごと代行してくれるものがある。

「パブリッククラウドとマネージドサービスを併用することで、予算と時間に制約の多い企業でも、スピーディーにリソースを調達し、トラブルを抑えながら、日々の運用管理に対応していくことができます」(朝香氏)

丸紅情報システムズが、このようなマネージドサービス付きのストレージサービスとして提供しているのが「MSYS-CVO Cloud」だ。



手軽にパブリッククラウドを導入できる 「MSYS-CVO Cloud」

MSYS-CVO Cloudは、ストレージの設計構築から監視運用・回線費用、パブリッククラウドの請求代行までをパッケージ化し、手軽にパブリッククラウドを導入できるように設計されたストレージサービスだ。

ストレージシステムには、オンプレミスのNASシステムとして世界的にも定評のあるNetAppのストレージOS「ONTAP」のクラウド版を採用し、パブリッククラウドとしてはAmazon Web Service (AWS)、Microsoft Azure、Google Cloudなどのグローバルで実績のあるクラウド基盤をユーザーニーズに合わせて採用するかたちだ。

「クラウド環境に対応したONTAPである『Cloud Volumes ONTAP (CVO)』をパブリッククラウド基盤で稼働させ、それら基盤の管理をすべて丸紅情報システムズが行います。ユーザーはストレージに保存するデータの管理を行うだけでよく、ストレージの増強やリソースの増強が必要になった場合も迅速に対応することができます。また、クラウド利用にまつわるアカウント管理や課金管理、窓口への問い合わせなども当社に一本化できます」(倉田氏)

MSYS-CVO Cloudのメリットは、テレワーク対応などの急激なビジネス環境の変化にスムーズに対応できることにある。特にストレージはデータ拡大にあわせた容量の見積もりが年々難しくなっており、運用管理にもスキルが必要な分野だ。人員不足と運用コストの増加を抑え、効率的なIT運用を実現できることもメリットだ。

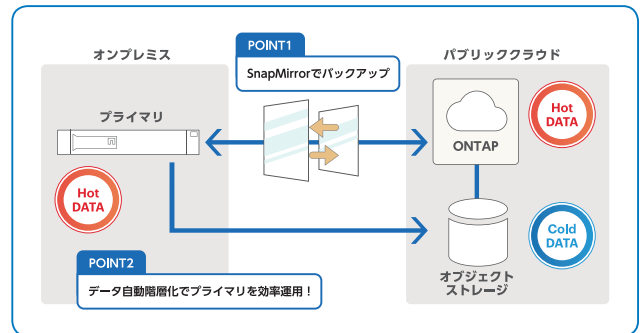
バックアップ/DR、データ活用など ハイブリッドクラウド活用にも

MSYS-CVO Cloudは、さらなるクラウド活用のきっかけにもなるサービスだ。

「パブリッククラウドを活用するための第一歩として導入しやすいサービスです。さらに次のフェーズとして、ハイブリッドクラウド環境を生かしたバックアップやDR(災害対策)、アーカイビング、データ活用基盤などとして展開していくこともできます」(朝香氏)

MSYS-CVO Cloudで採用しているONTAPは多くの採用実績があるストレージシステムだ。すでにONTAPを社内でも利用している場合、既存システムとクラウド上に構築したONTAPシステムとを連携させ、ハイブリッドクラウド環境でのストレージ運用が可能になるのだ。

ハイブリッドクラウドの活用例は大きく2つある。ひとつは、ONTAPのSnapMirror機能を使って、クラウド上にミラー環境を構築できることだ。SnapMirror機能は変更のあった分だけをミラー転送することができ、一度の通信が少なく抑えられるため、バックアップ時間を大幅に短縮することができる。これにより、既存システムの障害時に、クラウド側を本番環境として切り替えて使用する



MSYS-CVO Cloud活用例(ハイブリッドクラウド運用)

ることや、クラウド上データを複製することで、開発環境として使用することも可能だ。

もうひとつは、ONTAPのFabricPool機能を使って、クラウド上のオブジェクトストレージと連携した自動階層化を行うものだ。データを活性データ(Hot Data)と非活性データ(Cold Data)に自動的に階層化し、頻繁に利用する活性データだけを既存のプライマリストレージに置くことでパフォーマンス向上とデータの効率的な運用が見込める。

丸紅情報システムズは、NetAppの最高位のパートナー企業であり、国内におけるNetAppストレージで多数の販売実績がある。また24時間365日稼働のサポートセンターを有し、NetApp製品の知識や経験を豊富に持つエンジニアを揃える。このため、ハイブリッドクラウドの活用でも、NetApp製品の特徴を生かした、さまざまな提案が可能だ。

倉田氏は「テレワークへの対応でストレージを中心にインフラ管理に課題を抱える声を多く聞きました。環境変化に強い基盤としてMSYS-CVO Cloudを活用いただき、そのうえで、ハイブリッドクラウド活用を推進して欲しいと思います」と話す。

MSYS-CVO Cloudは、企業にとって力強い味方になるサービスだ。



丸紅情報システムズ株式会社

〒169-0072 東京都新宿区大久保三丁目8番2号 新宿ガーデンタワー(受付:13階)

IT基盤ソリューション事業本部 プロダクトマーケティング部

TEL 03-4243-4210

E-mail ps-marketing@marubeni-sys.com

